

思ひ出の一言

数一〇年ぶりに塵に覆われていた高校の卒業アルバムを取り出してみた。最初の頁には木造の校舎と校歌が載っており、山中校長先生、遠藤教頭先生をはじめ、学年担任の高橋先生、武田先生と西在家、村上、大野、中村の各クラス担任の先生方の若々しい写真や、卒業生一人ひとりの顔写真を見ながら約三〇年前をなつかしく顧みた。

面影が良く残っている人、全く別人の様な人、今でもよく一緒に酒を飲む人、卒業してから消息がはつきりしない人等の記憶をたどりながら頁をめくっていった。終わり

肥田敏比古(新18回生)

の編集後記「蒔かぬ種は生えぬ」の名文を読み終え、最後の頁を開いた。

各々一言ずつの短い文章が記載されている。いかなる理由で載せることになったか記憶にないが、おどろいたことに五〇歳に手が届く年になって記述しても、違和感のない文章がいたるところにある。いくつかを紹介しよう。

「努力有る所に道有り」「苦無き所に安らぎ無し」「夜明け前が一番暗い」「苦は楽の種」等の現在の努力を未来へ導く文。

「己を知って己に勝つ」「天才とは努力である」「真実の自己をみつめよ」「意志あれば道

有り」「壁を恐れるな」等の自分を見つめ、励ます文。

「誠実にまされる知恵なし」「忍耐と寛容」「健康そして誠意ある生き方」「克己復礼」「一円を笑う者、一円に泣く」等の自分への人生教訓の文。

「希望は大きく現実には確実に」「マイペースで確実に」「人生はペースを破れば落伍する」「現実に反抗する前に先ずやれ」「何事も無理をするな」「現実はきびしいよ」「地獄のさたも金しだい」等の現実直視の文。

「女難をさけて三年ついに夢破る」の剛の文もあるが、最も気に入ったのは「いつまで高校生でいたい」であった。

高校時代に得た教訓・希望が卒業して三〇年たった今あまり変わり無く、行雲流水の印象をもつのは自分だけだろうか？

この頃の自分と同じ年頃になったわが子は

どう思う出の文章を書くだろうか？

ちなみに、自分の文は「酒は百薬の長」で

ある。酒を飲んだの失敗も多くあるが、「あまりお酒を飲まないようにして下さい」と人

に話をするようになってから二〇年以上が過ぎた。